



に見えた。この現象はカナダ食と韓国食の境界を無くすことであったともいえる。この現象は「カモメ家族（超国籍家族、Transnational family）」として知られている移民現象と関係がある。カモメ家族とは早期留学をさせるために母が子供を連れて父と離れて移住する家族をいう。このカモメ家族は1990年代以降に増加した新たな移民文化であり、このような移民者増加が以前の移



写真3 旧正月の食べ物

民者に食材購入の容易さを与える結果にも寄与したのではないかと思う。このように母国の食材を購入することは、移民者達の食生活の中で最も重要なことである。自給自足社会ではない限り、食材を購入するという食文化が母国の食文化を絶えることなく存続させ、またその環境も創っていくのだと思う。



写真4 韓国人が経営している寿司屋

派遣研究記



譚 静

(歴史民俗資料科学研究科 博士後期課程)

北京という町に対して、私は昔からずっと好印象を持っていた。勿論北京は中国の首都であり、歴史・政治・文化などの中心である。また様々な夢を持っている人々が憧れる魅力的な街である。それだけでなく、北京は様々な文化が交流してきた心の広い街であるために私の好きな街であった。そのため、今回の神奈川大学非文字資料研究センターと北京師範大学文學院・民俗学与文化人類学研究所の交流プログラムの一環として3週間にわたって派遣研究に参加する機会をいただいたことは、非常に幸運であった。

北京師範大学文學院の前身は中国語言文学部であり、中国で最も歴史のある中国語学部の一つである。2003年5月に設立された。北京師範大学文學院は、前身である中国語言文学部の豊富な資料を基にさらなる発展をとげている。現在、文學院に所属する研究所が合計11ヶ所あり、民俗学与文化人類学研究所はその一つである。

民俗学与文化人類学研究所は、大学の主教学棟の7階にあり、主に3つの研究目的（民間叙事学、民俗志学、歴史人類学）を設定している。そこは、歴史文献の整理

及び使用を重視すると共に、フィールド調査を通じ、資料の収集や民間生活の観察及び体験をすることを強く主張している。

私は、過山系ヤオ族の儀礼に用いられる信仰神が描かれた掛軸（神画）の研究を進めている。そのため中国人研究者によって行われた過山系ヤオ族の先行研究を明確にすることを目的とし、そこから自らの研究が、長いヤオ族研究史の流れの中のどこに位置づけられるのかを明らかにすることが、今回の派遣の目的であった。今回の調査は、主に民俗学与文化人類学研究所のデータベース及び大学図書館に所蔵している文献資料を基に展開した。今回の調査を通して収集した中国人研究者及び調査団体により行われたヤオ族の調査研究内容は、以下のようになっている。それを時期を分けて簡単にまとめてみた。また各時期において、調査時、調査地、調査者及び団体の順に示している。

● 1920年代～日中戦争開始（1937年7月）

1928年5月～7月／広西省大ヤオ山／広東中山大

学生物学部採集隊。

1928年7月～8月／広西省凌雲県北部／中央研究院民族学組。

1930年3月～5月／広東省北江地区／広東中山大学生物学部採集隊。

1931年春／広西省大ヤオ山／広東中山大学生物学部採集隊。

1935年10月／広西省大ヤオ山西部／費孝通、王同恵夫婦。

1935年／広西省大ヤオ山／徐益棠。

1936年11月／広東省曲江県荒洞ヤオ族村／広東中山大学文科研究所、文学院史学学科、生物学科及び広州市立博物館の所属者（10名）。

● 日中戦争期（1937年7月～1945年8月）

この時期には、主に広東北部及び広西のヤオ族地域を中心に調査が行われた。

● 1945年8月～1949年10月

この時期は、ヤオ族の調査中断期となっている。

● 1949年10月～文化大革命期

1951年／各省のヤオ族地域／言語学研究者、歴史学研究者、人類学研究者、民族学研究者が参加した中央訪

問団。

1954年、1956年、1958年／各ヤオ族地域の言語、社会歴史、民間文学を対象に総合調査が行われた。／関連分野の専門家及びヤオ族出身の幹部等。

● 1980年代～現在

この時期は、ヤオ族調査研究が盛んに行われた時期であった。

以上の各時期にわたって中国人研究者は、ヤオ族の起源神話、宗教信仰、葬送儀礼、教育、民間医療の知識、言語、文字などに関して多くの研究成果をあげている。その他には「過山榜」の研究、広東北部ヤオ族の歴史、また歴史上のヤオ族武装蜂起、解放前のヤオ族社会に関する研究成果も多く見られる。

今回の調査においては、非常に有益な資料を多く得ることができた。北京師範大学文学院・民俗学与文化人類学研究所所長の万建中教授はじめ、同研究所の于飛氏と卜夢薇氏の御厚意に対し、心より謝意を申し上げたい。

参考文献：

胡起望、2009年8月、「瑤族研究概述」『瑤族研究五十年』、中央民族大学出版社、332頁～352頁



写真1 北京師範大学図書館



写真2 留学生公寓

フランスでの現地調査を終えて

田中 あや
(経済学研究科 博士後期課程)



私は約3週間、フランスのパリ市内にあるフランス国立高等研究院（EPHE）にて、病院の中で使用されてい

る標識（非常口など）について現地調査を行った。EPHEの先生方と田上繁先生、非文字資料研究センタ